

本日やること

① 曲線と線積分

- 1変数ベクトル関数
- 曲線

② ベクトル解析

- 曲面と面積分

詳しいことは2年次の「電気のための微分積分D」で勉強してください。

曲線と線積分

1 変数ベクトル関数

ここからは空間で考える。

1 変数ベクトル関数・成分表示

実数に空間のベクトルを対応させる写像

$$\begin{array}{ccc} \mathbb{R} & & \text{ベクトル} \\ t & \longmapsto & \vec{A}(t) : \end{array}$$

を **1 変数ベクトル関数** という。成分表示すると

$$\vec{A}(t) = (x(t), y(t), z(t))$$

のように **各成分は t の関数** となる。

$$t \rightarrow t_0 \text{ のとき } \vec{A}(t) \rightarrow (x_0, y_0, z_0) \Leftrightarrow (x(t) \rightarrow x_0, y(t) \rightarrow y_0, z(t) \rightarrow z_0)$$

$\vec{A}(t)$ が **連続** \Leftrightarrow 各成分関数が連続

曲線と線積分

1 変数ベクトル関数の微分法

1 変数ベクトル関数の微分係数の定義

$$\vec{A}(t) \text{ が } t_0 \text{ で微分可能} \Leftrightarrow \lim_{\Delta t \rightarrow 0} \frac{\vec{A}(t_0 + \Delta t) - \vec{A}(t_0)}{\Delta t} \dots (*) \text{ が存在}$$

(*) を t_0 における微分係数ベクトルといい

$$\text{記号: } \frac{d\vec{A}}{dt}(t_0), \dot{\vec{A}}(t_0), \dots$$

で表す

曲線と線積分

1 変数ベクトル関数の微分法

微分係数の成分表示

$\vec{A}(t) = (x(t), y(t), z(t))$ のとき

$\vec{A}(t)$ が t_0 で微分可能 $\iff x(t), y(t), z(t)$ が t_0 で微分可能

$\dot{\vec{A}}(t_0) = (x'(t_0), y'(t_0), z'(t_0))$ 成分ごとに微分すればよい。

[確かめ]
$$\begin{aligned} & \frac{\vec{A}(t_0 + \Delta t) - \vec{A}(t_0)}{\Delta t} \\ &= \frac{(x(t_0 + \Delta t) - x(t_0), y(t_0 + \Delta t) - y(t_0), z(t_0 + \Delta t) - z(t_0))}{\Delta t} \\ &= \left(\frac{x(t_0 + \Delta t) - x(t_0)}{\Delta t}, \frac{y(t_0 + \Delta t) - y(t_0)}{\Delta t}, \frac{z(t_0 + \Delta t) - z(t_0)}{\Delta t} \right) \\ & \quad \begin{array}{ccc} \downarrow & \downarrow & \downarrow \\ x'(t_0) & y'(t_0) & z'(t_0) \end{array} \end{aligned}$$

曲線と線積分

1 変数ベクトル関数の微分法

1 変数ベクトル関数の導関数ベクトルの定義

$t \mapsto \dot{\vec{A}}(t)$ を $\vec{A}(t)$ の導関数ベクトルという

導関数の成分表示

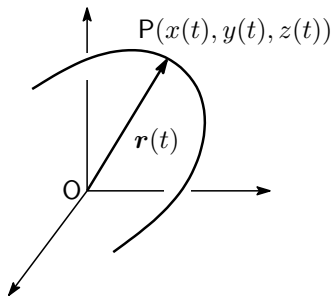
$\vec{A}(t) = (x(t), y(t), z(t))$ のとき

$$\dot{\vec{A}}(t) = (x'(t), y'(t), z'(t))$$

曲線と線積分

曲線

曲線のパラメータ表示



$\vec{r}(t)$: 連続な 1 変数ベクトル値関数

$$C : \vec{OP} = \vec{r}(t) \dots\dots\dots ①$$

を満たす点 P の軌跡 C は連続な曲線となる。

(*) を **曲線 C のパラメータ表示** といい, t を **パラメータ** という。

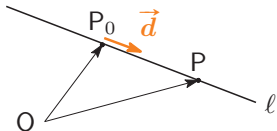
曲線と線積分

曲線と線積分

[例] 点 P_0 を通り, ベクトル $\mathbf{d} \neq \mathbf{0}$ に平行な直線 ℓ のパラメータ表示は

$$\ell: \overrightarrow{OP} = \overrightarrow{OP_0} + t\vec{\mathbf{d}} \quad (t \in \mathbb{R})$$

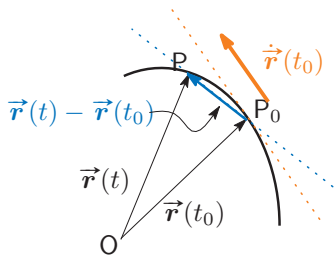
$\vec{\mathbf{d}}$ を方向ベクトルという



曲線と線積分

曲線と線積分

接ベクトルの定義



$\dot{\vec{r}}(t_0) \neq \mathbf{0}$ であるとき

$\dot{\vec{r}}(t_0)$ (の 0 でない定数倍) を, P_0 における C の接ベクトルという。

[考え方] $t \rightarrow t_0$ とすると $P \rightarrow P_0$ となるので直線 P_0P は曲線の接線に近づくと考えられるが

$$\dot{\vec{r}}(t_0) = \lim_{t \rightarrow t_0} \frac{\vec{r}(t) - \vec{r}(t_0)}{t - t_0} = \lim_{t \rightarrow t_0} \frac{\overrightarrow{P_0P}}{t - t_0}$$

だから $\dot{\vec{r}}(t_0)$ は接線の方向ベクトルとなる。

曲線と線積分

曲線と線積分

速度ベクトル・加速度ベクトル

パラメータ t を時刻と考えると P は動点となるが

$\dot{\vec{r}}(t_0)$ は P の速度ベクトル

$\ddot{\vec{r}}(t_0)$ は P の加速度ベクトル

となる。

曲線と線積分

曲線

曲線の長さ

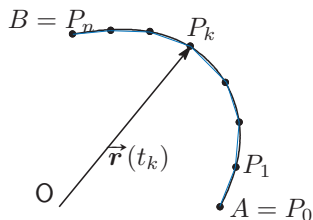
曲線 C の分点を

$$A = P_0, P_1, \dots, P_n = B$$

とするととき C の長さ L を

$$L = \lim \sum_{k=1}^n |P_{k-1}P_k|$$

と定める. \lim は分点の間隔を細かくする極限。



曲線と線積分

曲線

曲線の長さのパラメータによる計算

C のパラメータ表示を

$$C: \overrightarrow{OP} = \vec{r}(t) \quad (a \leq t \leq b)$$

とする。ただし $\vec{r}(t)$ は微分可能, $\frac{d\vec{r}}{dt}$ は連続で $\mathbf{0}$ にならないものとする。以後常にこれが成り立つものと仮定する。このとき

$$L = \int_a^b \left| \frac{d\vec{r}}{dt} \right| dt$$

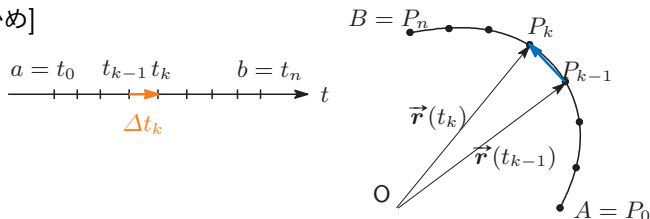
である。成分表示 $\vec{r}(t) = (x(t), y(t), z(t))$ を使うと

$$= \int_a^b \sqrt{\{x'(t)\}^2 + \{y'(t)\}^2 + \{z'(t)\}^2} dt$$

曲線と線積分

曲線

[確かめ]



$$a = t_0 < t_1 < \dots < t_n = b \quad \overrightarrow{OP_k} = \vec{r}(t_k), \quad k = 0, 1, \dots, n$$

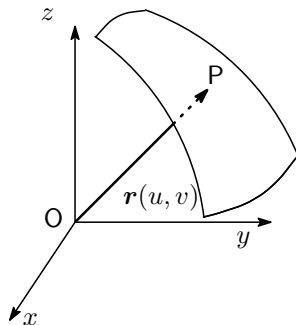
とすると

$$|\overrightarrow{P_{k-1}P_k}| = \left| \frac{\vec{r}(t_k) - \vec{r}(t_{k-1})}{t_k - t_{k-1}} \right| (t_k - t_{k-1}) \doteq \left| \frac{d\vec{r}}{dt}(t_k) \right| \Delta t_k$$

$$L \doteq \sum_{k=1}^n \left| \frac{d\vec{r}}{dt}(t_k) \right| \Delta t_k \rightarrow \int_a^b \left| \frac{d\vec{r}}{dt} \right| dt$$

曲面と面積分

曲面のパラメータ表示



$\vec{r}(u, v)$ を連続な 2 変数ベクトル値関数と
するとき

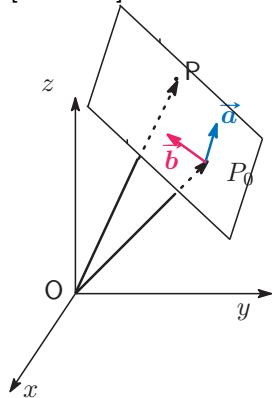
$$\vec{OP} = \vec{r}(u, v) \cdots (*)$$

を満たす点 P の軌跡は連続な曲面になる。
これを利用して曲面を表す方法を, u, v を
パラメータとする曲面のパラメータ表示と
いう。

以後, 曲面は (*) のようにパラメータ表示
されているものとする。

曲面と面積分

[例：平面]



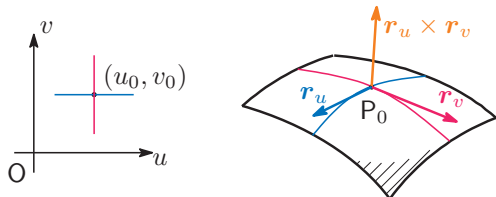
$$\vec{OP} = \vec{OP}_0 + u\vec{a} + v\vec{b}$$

を満たす点 P の軌跡は P_0 をとおき \vec{a}, \vec{b} で張られる平面。

\vec{a}, \vec{b} を方向ベクトルという。

曲面と面積分

接ベクトル



u 曲線 : 変数 u のみを動かしたときの点 P の軌跡

v 曲線 : 変数 v のみを動かしたときの点 P の軌跡

また, $\overrightarrow{OP_0} = \vec{r}(u_0, v_0)$ とするとき, $\vec{r}_u(u_0, v_0)$, $\vec{r}_v(u_0, v_0)$ が存在して $\vec{0}$ でないならば

$\vec{r}_u(u_0, v_0)$ は u 曲線の点 P_0 における接ベクトル

$\vec{r}_v(u_0, v_0)$ は v 曲線の点 P_0 における接ベクトル

曲面と面積分

接平面・法ベクトル

$\vec{r}_u(u_0, v_0)$, $\vec{r}_v(u_0, v_0)$ が存在して 1 次独立ならば, 点 P_0 における接平面の方向ベクトルとなる。以後 \vec{r} はこの性質を持つと仮定する。

また外積

$$\vec{r}_u(u_0, v_0) \times \vec{r}_v(u_0, v_0)$$

は接平面に垂直であるが, これと同方向のベクトルを S の点 P_0 における法ベクトルという。

曲面と面積分

曲面積の定義

D は u, v 平面の面積確定な有界閉領域, 曲面 S は

$$\vec{OP} = \vec{r}(u, v) \quad ((u, v) \in D)$$

でパラメータ表示されるとき

$$S \text{ の面積} = \iint_D |\vec{r}_u \times \vec{r}_v| dudv$$

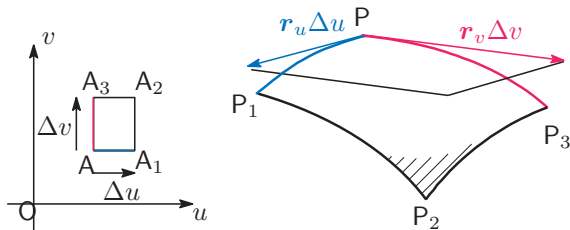
と定める.

$$dS = |\vec{r}_u \times \vec{r}_v| dudv$$

を面積要素と呼ぶ.

曲面と面積分

[考え方] u, v が小さい長方形領域 $AA_1A_2A_3$ を動くとき, 対応する曲面の小部分 $PP_1P_2P_3$ の面積 ΔS は



$$\overrightarrow{PP_1} = \vec{r}(u + \Delta u, v) - \vec{r}(u, v) \doteq \vec{r}_u(u, v)\Delta u,$$

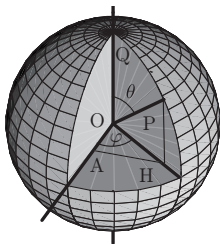
$$\overrightarrow{PP_3} = \vec{r}(u, v + \Delta v) - \vec{r}(u, v) \doteq \vec{r}_v(u, v)\Delta v$$

$$\Delta S \doteq |\vec{r}_u(u, v)\Delta u \times \vec{r}_v(u, v)\Delta v| = |\vec{r}_u(u, v) \times \vec{r}_v(u, v)|\Delta u\Delta v$$

のように近似されるから。

曲面と面積分

球面と球面座標



S を原点中心, 半径 a の球面とするとき,
 $P \in S$ の直交座標は

$$\vec{OP} = (a \sin \theta \cos \varphi, a \sin \theta \sin \varphi, a \cos \theta)$$

$$(0 \leq \theta \leq \pi, 0 \leq \varphi \leq 2\pi)$$

と表される。ただし $P(x, y, z)$, $H(x, y, 0)$,
 $A(x, 0, 0)$, $Q(0, 0, a)$ とするとき

$$\angle QOP = \theta, \quad \angle AOH = \varphi$$

である。これを球面座標表示という。